
発達理論の学び舎

Back Number: Vol 276

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



目次

- 5501. ベルギー・エジプト・ギリシャの旅に向けて:作曲上のスタイルについて
- 5502. 今朝方の夢:呼吸を続けるダ・ヴィンチのノート
- 5503. 購入予定の書籍の選定を終えて:今日の学びと昨夜の知覚体験
- 5504. 言語的イメージの知覚と新たな脳神経回路の開発
- 5505. 今朝方の夢
- 5506. 叡智の宿る場所へ
- 5507. エネルギーの根源と意識の探究
- 5508. 今朝方の夢
- 5509. 意識拡張現象と空なる人間存在
- 5510. ジェイムズ・ブレイドやフランツ・アントン・メスメルへの関心
- 5511. 今朝方の夢とゲシュタルト能力
- 5512. 今朝方の夢
- 5513. 今朝方の夢の続き
- 5514. 本日の振り返り
- 5515. 旅程の変更と密教としての作曲
- 5516. 今朝方の夢践
- 5517. 食事と脳:水と安らぎ
- 5518. 今朝方の夢
- 5519. 言語と知性:「偏在精神説」と脳の潜在能力
- 5520. 本日の振り返り

時刻は午前5時半を迎えた。いつもながら目覚めの状態はすこぶる良く、起きた瞬間に今日1日が充実感と幸福感に包まれたものになるという確信がある。毎朝そうした確信で目覚める。

毎晩寝る前にある特定の他者に遠隔ヒーリングを行っているだけでなく、自己ヒーリングを施していることの効果も現れているようだ。とりわけ脳の働きが良好であり、身体全体の働きも良い。

今月末にはベルギーの主要3都市に旅に出かけ、その旅から帰ってきたら、また短い断食をしようと思う。それは1日から2日ぐらいのものでいい。3月末にはいよいよエジプトに足を運んでみようと思う。以前の夢に出てきたシンボルの意味を探求する上でもその時の旅は重要なものになるだろう。そして4月末にはギリシャに出かけ、そこでもまた自分のテーマに沿った観光をしようと思う。

ちょうど今朝、以前にフローニンゲンの街の古書店で購入したオックスフォード大学出版から出されている“Ancient Greek Music (1994)”という書籍の背表紙に目が止まり、ギリシャに旅行に行くイメージが再度湧いてきた。また、ここ最近では哲学のいくつかの領域を探究しようと思っており、そうした哲学領域の根幹にはギリシャ哲学が横たわっているため、その源流に触れる意味でもギリシャには是非とも足を運んでおきたい。そのようなことを先ほど考えていた。

昨夜、クラニオセイクラル・バイオダイナミクスも他の実践と同様に、とにかく実践経験を積むことが大切だということを改めて思っていた。それは作曲と同様に、実践が物を言う。目の前に施術をする他者がいなければ、日々自分に対してそれを適用して実践経験を積んでいこう。創始者のウィリアム・サザーランドがそうしたように。

そこから私は、作曲上のスタイルについて考えていた。先日、ミラノでキリコ展を観賞した際に、館内のフロアの壁にキリコの言葉が引用されていた。それは、「自分独自のスタイルを望むことは、それを獲得できなくさせる唯一の道である。自分のスタイルについて考えなければ考えなくなるほど、スタイルがあなたを求めるようになる」というものだった。作曲上のスタイルを求めていた自分にとって、この言葉の意味することは大きい。自らのスタイルを確立しようと望むのではなく、実践経験を日々積む中でスタイルが自ずから立ち現れてくるのを待つ方が賢明なのかもしれない。

今日も過去の偉大な作曲家の曲を参考にしながら、作曲実践を積んでいく。マルタ共和国とミラノへの旅に出かける前と同様に、ここ最近では毎日10曲ほど短い曲を作っている。小節で言えば、160から200小節ぐらいになるだろうか。これくらいの量の実践を毎日積んでいこう。今のところは1日に10曲ほど作るだけに留め、その他の時間は関心領域の読書に充てようと思う。ちょうど明日には、先日と同様に、まとまった書籍をイギリスやドイツの書店に注文する予定だ。

物理的現実世界の旅を通じて、物理的な世界に身体及び精神を安置させる中で探求を行っていく。そして書物を通じて、知的情報世界に身体及び精神を安置させる中で自分の関心テーマの探究を進めていこう。フローニンゲン:2020/1/31(金)05:54

5502. 今朝方の夢:呼吸を続けるダ・ヴィンチのノート

今、波の音が入ったヒーリング音楽を聴いている。ここ最近ではピアノ曲ではなく、森の中で小鳥がさえずるヒーリング音楽や波の音が入ったヒーリング音楽を聴いてばかりである。日中の活動中にはそれらの音楽を絶えず流し、そうした自然音の中に自分がある。今の私は、そうした自然音が持つ治癒的な力を求めているのかもしれない。この力を享受することによって、自分の作曲実践やヒーリング実践に良い影響が見られるのではないかと思う。

昨日、少しばかり脳の部位と機能を調べており、そのおかげで自己ヒーリングを脳に行う際により具体的なイメージが描けるようになった。昨日に発見した脳の解剖学的・神経脳科学的な数冊の書籍については追って購入したい。それらを読むことによって、細部を具体的にイメージすることが可能になり、ヒーリングによる働きかけがより行いやすくなるだろう。

ここで今朝方の夢をふっと思い出した。夢の中で私は、2人の親友(NK & YU)と一緒に、人類の起源に関する話をしていた。話の中で私は、人類の根っこは共通しており、私たちは皆、共通の祖先を持っていることを述べていた。元々は共通の根を持っていたのであるが、そこから人間の小さな自我による諸問題によって根が分岐していき、現在のように無数の人間に分岐していった、というストーリーを語っていたのを覚えている。今朝方の夢で覚えているのはそのぐらいだろうか。一昨日と昨日は印象に残る夢を随分と見ていたのだが、今朝方は夢の世界が落ち着いていた。今夜の夢の世界はいかほどだろうか。

昨日、ミラノで購入したレオナルド・ダ・ヴィンチに関する数冊の文献資料に目を通していた。ミラノで訪れたいくつかのダ・ヴィンチ展の一つの中で、ダ・ヴィンチの科学への取り組み方が独特であることに気づいた。端的には、ダ・ヴィンチは観察を中心に、ある現象を理解するために詳細な記述と画像化を繰り返し、実験や理論は重視していなかったのである。それに気づいた時、自分の探究的取り組みについて考えを巡らせた。

作曲などの実践は、文字通り実験的な実践を大切にすることがあるかと思うが、意識現象の探究においては、より記述とイメージ化を大切にしてみようかと思う。その他にダ・ヴィンチに関して知ったことと言えば、ダ・ヴィンチはラテン語や数学の正式な教育を受けておらず、独力でラテン語を習得したものの、当時の多くの学者からは科学者であるとは見なされていなかったということである。そんなダ・ヴィンチは、学術用語を我ものにしていく努力を惜しまず、自らの語彙の体系を豊かにし、言語リアリティを開拓していくために、ラテン語の学術用語を手書きで書き写していくという実践を行っていた。私はその手書きのノートを見た。そのノートに書かれた文字がとても印象に残っている。

ダ・ヴィンチは、毎日様々なことを思いながら、一連のノートを書き留めていったに違いない。今手元にある数冊の文献資料に掲載されているノートの断片からもそれが伝わる。ダ・ヴィンチのノートは、今ここで呼吸を続けている。フローニンゲン:2020/1/31(金)06:15

5503. 購入予定の書籍の選定を終えて:今日の学びと昨夜の知覚体験

時刻は午後9時を迎えた。つい先ほど、購入予定の書籍リストを再検討し、41冊まで絞り込むことができ、明日あたりにでもそれらを注文しようと思う。特に今回は、アーノルド・ミンデル、チャールズ・タート、ルパート・シェルドレイク、アリス・ベイリー、ヴィルヘルム・ライヒ、スタニスラフ・グロフ、デイヴィッド・ルイス、ソール・クリプキ、ヤニス・クセナキス、ミルトン・エリクソンらの書籍を購入し、それらに加えてオックスフォード大学出版やケンブリッジ大学出版から出版されているいくつかの哲学領域の論文選集を購入する。その他にも、ヒーリングや超心理学関係の書籍をいくつか購入する予定だ。とりあえず書籍の選定が終わったので、あとは注文するだけである。

午前中に状況認知や数理心理学の書籍を読んでいると、先人から学ぶことは、「認知的徒弟制」の実践でもあることに気づいた。学者にせよ、作曲家にせよ、今の自分の探究や実践を支えてくれる

過去の偉人たちの仕事から学びを得ることは、認知的徒弟制に基づく歩みであることに気づかされる。先人たちが苦勞して積み上げてきたものを書籍や楽譜などから学べることの有り難さを思う。ただし、そこで展開されている知識や技術の使い方に関しては、全て密教的なものであるため、単に書籍や楽譜などから表面的に学ぶだけでは実践に足るところまで辿り着かない。

書籍や楽譜が開示する知識・技術空間にアクセスし、そこで自ら額に汗を流すように思考身体運動を行っていくことが少なくとも求められる。もちろん理想は、場を共有しながら先人から直接手取り足取り教えてもらうことだが、それは現実的にできない場合がほとんどである。

昼前にカート・レヴィンのトポロジカル心理学に関する書籍を読んでいた。心理場に対するレヴィンの定義と数式表現は、今後の自分の探究でも応用可能かもしれないというアイデアが芽生えた。「現象学的なものは全て、幾ばくか心理的なものである」というレヴィンの言葉は、まさにここ最近自分が考えていたこととも合致する。物理次元において身体的に内的感覚を感じた時、心理的次元にもその感覚は投影ないしは写像として映し出されている。実際のところ、身体と心の繋がりにはそれ以上の事柄がある。それは何かというと、個人の身体と心の次元を超えた次元には集合的な意識場(エネルギー場と情報場)があり、個人の身体と心の次元の現象は、そうした集合的な意識場にも影響を与え、さらには影響を受けるというものである。

今、今朝方の夢をふと思い出した。小中学校時代に野球部に所属していた友人(YA)が夢に現れ、彼は便秘で悩んでいた。彼は1日を通してほとんど水を飲んでいないようだったから、私は彼にもっと水を飲むことを勧めた。そんな夢を見ていたことを1日の最後に思い出す。

時間も時間なので、もう少ししたら就寝に向けて準備を始めよう。ここ数日間は、以前と同様に、午前4時台に起床することができており、とても良いリズムだ。昨夜の就寝前には、無数のイメージを知覚していた。今夜もそれを知覚するだろうか。昨夜のその体験はとても興味深く、脳内に無数の音符が調和をなして現れ、明滅を繰り返していた。その後、音楽記号ではなく、サンスクリット語、英語、古代日本語の文字が脳内で飛び交っており、私はそれらの言語イメージに一切介入することなく、ただそれらを眺めていた。それは特殊な意識状態において起こる何ら不思議でもない現象であり、随分と再現性を持って知覚できるようになってきている。今夜も意識状態を整え、通常とは異なる意識状態に参入することを試してみたいと思う。フローニンゲン:2020/1/31(金)21:19

今朝は午前3時ちょうどに起床した。昨日の就寝時間はいつもの通り、午後の10時前であり、そこから起床まで深い睡眠を取っていた。

気がつけば、今日から2月に入った。先日、季節の変わり目に際して、身体の調整が行われていたが、ここからぐっと寒くなると思いきや、天気予報を見る限りだとそれほど寒くない。数日前に初雪が降った程度であり、気温はまだ高い。いつから本格的な寒さがやってくるのだろうか。もしかして、今年の寒さはこの程度なのだろうか。オランダで生活を始めてから4年ほどになるが、年々暖かくなっている印象である。

一昨夜と同様に、昨夜も就寝前に千変万化するイマージュを知覚していた。やはり最初に現れたのは、呪文のような文字だった。しかも最初に現れたのは英語であり、その後にお経のような日本語が立ち現れた。そうした言語的イマージュが千変万化を繰り返しており、私はただその変化を眺めていた。その時の自分は、まさに特殊な意識状態にあった。厳密には、そうした意識状態を生成するように身体を緩めていき、自己ヒーリングを行っていた。

特殊な意識状態に入ってから、身近な他者への遠隔ヒーリングを行っていた。遠隔ヒーリングを始めようとした時、対象となる人物がありありと想起され、その人物の意識場にアクセスするような感覚があった。その感覚が起こった時、直感的にその状態はヒーリングに最適であると気づいた。今夜も引き続き、意識状態を整える実践と、自他へのヒーリング実践を行う。また、本日の夜にでも注文する一連の書籍群を通じて、意識そのものの探究と、意識状態とヒーリングに関する探究を進めていく。

様々な意識状態にアクセスすることを鍛錬するのみならず、新たな脳神経回路を作ることも意識してみよう。意識状態と脳の構造的発達には何かしらの対応関係があるのだから、それを意識するのはごく自然のことである。特に、作曲とヒーリングに求められる神経回路を新しく作っていく。それらはとりわけ実践を通して作られていく。逆に言えば、実践がなければそれらを開発していくことはできないだろう。作曲もヒーリングも、階層性を持つ意識場における身体運動に他ならず、その運動に従事することによって、対応する神経回路ができてくる。そうした実感が日々ある。

今日もまた創造活動と読書に没頭していこう。とりわけ、作曲においては、音楽空間内に音楽的ゲシュタルトを作ることを意識する。そして、そこに治癒的作用を組み込む工夫を考えていく。ないしは治癒的作用を働かせるような仕掛けをしていくための工夫を考えていく。

以前にも行っていたが、作曲に活かすために、黄金比の探究をしよう。これはまさにバルトークも行っていたものであり、バルトークはうまく黄金比を活用した作曲を行っていた。私は自分なりの方法でそれを活用したい。自然音からの癒しを日々実感する中で、そこにある自然法則に注目し、その法則の背後にある黄金比や数式を探究してみよう。今日もまた創造活動と読書によって、非常に実り多い1日になりそうだ。フローニンゲン:2020/2/1(土)03:58

5505. 今朝方の夢

生きる静かな喜びを実感する日々が過ぎていく。早朝の4時にふとそのようなことを思う。その喜びはとても静かなものであり、自分の芯から滲み出てくるような類のものである。それが身体全体に広がっていき、心を満たす。おそらくこの喜びの感情は、身体の細胞全てに行き渡り、心全体に広がっている。細胞と心から逆にフィードバックを受けた私は、さらに幸福感に包まれていく。そのような循環関係を見る。

今朝方は2つほど印象に残る夢を見ていた。最初の夢の場面では、私は見知らぬ会議室のような場所において、テーブルについていた。そこでは数人の男女が何かについて話をしていた。私の左隣には、小中高学校時代の友人(SS)の父が座っていて、私の右斜には1人の日本人女性が座っていた。いや、私の右斜のところに座っていたのは西洋人であり、日本語が堪能な女性だったように思う。その他にも後1人か2人ほどその場において、何かについて意見交換をしていた。

ある時、私の右斜のところに座っていた女性が、少し私を挑発するような言葉を述べた。それは冗談の1つだと分かっていたのだが、なぜか私は頭にきてしまい、突然英語で彼女をまくし立て始めた。その時に私は、以前から彼女に対して思っていたことを直球でぶつけた。“Your mind is not agile”と私は述べた。端的には、私は彼女に対して頭の回転が遅いことを指摘したのである。彼女の話す速度が不必要に遅過ぎて、それはまるでカメのようであり、ゆっくりとした速度の話し方が相

手を癒すようなものであればいいのだが、そうではなく、それは単に頭の回転の遅さから生まれてくるものだった。それを私は包み隠さずに指摘し、その後も彼女の英語の稚拙さを指摘した。

すると、私の左横に座っていた友人の父が私をなだめ始め、そこで夢の場面が変わった。次の夢の場面では、私はある大学の2つの立派な校舎をつなぐ渡り廊下の上にいる。その日の天気は晴れであり、時刻は正午前だった。雲ひとつない空の下、渡り廊下で太陽の光を浴びることはとても気持ちよく、とても清々しい気分になっていた。

すると、渡り廊下の真ん中で何やら大掛かりな建築工事が行われていることに気づいた。私はそこに歩み寄っていき、工事の様子を見た。すると、ちょうど工事が完了したらしく、大々的なセレモニーが行われていたのである。しかも、セレモニーがちょうど終わるところであり、その場にいた作業員と大学関係者が工事の完成を祝って、樽のようなものを地面に一斉に叩きつけて打ち鳴らし、樽から清酒が吹き上げた。

セレモニーに参列している人たちを見ると、そこに大学時代のゼミの友人が何人もいた。私は彼らに話しかけ、一緒にセレモニーを最後まで見届けた。セレモニーが終わると、ランチをみんなで食べようということになり、渡り廊下を戻って下の階のカフェテリアに向かった。するとそこで、小中高時代の友人(SN)と高校時代の友人と出会い、彼らはこの春から近くの大学に通うことになったと私に教えてくれた。

彼らが通うそれぞれの大学は、私が通っている大学と目と鼻の先にある。小中高時代の友人は大学に通うことの期待感を私に述べ、ちょうど今いる校舎の1階がエーゲ海だということを教えてくれた。「エーゲ海？」と私は一瞬不思議に思ったが、2階がエジプトとつながっており、1階はエーゲ海につながっているそうだった。彼の話話を話半分で聞いた私は、その場で2人と別れ、大学時代のゼミの友人たちと一緒にカフェテリアに向かった。

カフェテリアに到着すると、すでにテーブルセッティングが完了していた。どうやら誰かが事前に予約をしてくれていたようであり、またカフェテリア自体が貸切になっているようだった。テーブルにはすでに食べ物が乗っており、私はサラダの種類が豊富な席に腰掛けた。すると、目の前に小中学校時代の女性友達(MS)が現れ、彼女がそのテーブルの料理を切り盛りし始めた。端的には、テー

ブルの上の食べ物を一旦彼女のところに全て集め、そこから各人の皿に料理を乗せ始めたのである。

私は自分の食べたいものを好きな分量取ることの方が好ましかったので、彼女の行動に好意的ではなかった。しかし彼女の性格を考えると、あまり口出しをしない方がいいと思い、私は黙って席を立ち、隣のテーブルの方に歩き出した。すると、隣のテーブルにはこちらのテーブルにはないチーズ類が乗っていた。また、さらに隣のテーブルには餃子が乗っていた。どのテーブルにも美味しそうなサラダがあることには変わらないが、どうやらテーブルごとに置かれている料理が若干異なるようだった。普段食べないチーズに関心が向かい、チーズが置かれているテーブルに移動しようかと思った。

すると、先ほどまで座っていたテーブルの方から女性たちが叫ぶ声が聞こえてきた。見ると、そのテーブルの隣の共有テーブルに置かれていたチーズ類が焦げ始めたようだった。そのテーブルは電気鉄板の作りをしており、誰かが間違えて電源を入れ、それに気づかない状態が長く続いていたのだと思う。2人の女性友達たちが慌ててチーズをひっくり返し、焦げないように一生懸命になっていた。その様子を眺めていると夢から醒めた。フローニンゲン:2020/2/1(土)04:41

5506. 叡智の宿る場所へ

ここ数日間は午前3時台に起きていたが、今朝の起床は5時半だった。起床してみると、外には小雨が降っており、雨が窓ガラスに当たる音が鳴り響いていた。どうやら今日は、1日を通して雨が降る時間帯が多いようだ。

昨日、吟味して選んだ45冊の書籍からさらに絞り込みをし、合計で34冊ほど書籍を購入した。欧州内の国へ数日間旅行するぐらいの費用となったが、長年探究を続けてきた著者から学びを得られることを思うと、書籍というのは随分と安いものだと改めて思う。購入した書籍の分野は多岐に渡るが、それらの書籍を貫く共通テーマがある。その共通テーマとは、他者と社会の治癒と変容の実現であり、その実現につながる探究をこれからより真剣に進めていく。

自分の中で、ようやく利他心というものが芽生えてきたようである。自分という1人の人間に閉じられた形の探究は終わりを告げ、今は自分の探究が他者への無償の奉仕に結びついている感覚がある。こうした流れが生まれてきたことを嬉しく思う。

34冊の書籍をイギリスとドイツの書店に注文した時、書籍への支払いは、どこか寄付をしているような感覚があった。それはもちろん、著者に対するものではなく、顔の見えぬ数多くの他者や社会に対するものだった。探究がこの社会に対する無償の奉仕につながっているというこの感覚を大切にしたい。そうした感覚を持って今日もまた読書に励みたいと思う。

今日はクラニオセイクラル・バイオダイナミクスに関する“Cranial Intelligence: A Practical Guide to Biodynamic Craniosacral Therapy”という書籍と、ステファン・ホーキング博士の“A Brief History of Time”という書籍を読みたいと思う。書籍をまとめて購入したことにより、それらの書籍が全て届くまでは旅に出かけることを控えようかと思った。今月末に予定していたベルギー旅行を先に伸ばし、逆にエジプト旅行を早めようかと考えている。具体的には、エジプトには3月末ではなく、3月の最初の週あたりに訪れてみようかと思う。もちろん、書籍の到着状況を見て、今月末にエジプトに足を運ぶように計画を変えてみてもいい。こうした旅もまた、この社会に対する奉仕の意味合いを持つ。

普段から絶えずリラックスして生活をしている自分にとっては、旅が息抜きになることはない。確かに、場所を変えることによって気分転換が図られるが、リラックスを求めて旅をすることはない。いや、確かにリラックスを求めて旅をすることはないのだが、旅を通じて変性意識状態になることによって、治癒と変容が毎回起こっていることを実感すると、旅に治癒と変容を期待している自分がどこかにいるかもしれないと気づかされる。こうした治癒と変容の作用以外にも、やはり旅は見聞を広げ、新たな自己を発見させてくれるきっかけになる。見聞の拡大と自己発見が社会への奉仕に結びついているのが、今の自分の旅である。だからこそ旅が使命的な職業になるのである。天職の一つに旅をすることが入り込んできた意味はそういうことなのだろう。

今年もまた気の向くままに旅に出かけていく。新たな場所に訪れるたびに、自分が変わっていく。世界の様々な場所に足を運ぶのは、そこに先人たちが積み重ねてきた叡智が眠っているからであり、その場所に足を運ぶことによって、先人たちの叡智が流れ込んでくる感覚がある。それはきっと、集合的な意識場からのフィードバックなのだろう。

自然、街、そして街にある美術館や博物館を巡ること。それを続けていく過程で、先人たちの叡智を汲み取り、それを現代社会の治癒と変容の実現に向けて活用していく。フローニンゲン:2020/2/2(日)06:26

5507. エネルギーの根源と意識の探究

数日前の夜に、ふと太陽に関心が向かった。太陽系において一番巨大なこの恒星の成り立ちなどに関心が向かった。そしてそれ以上に、太陽からエネルギーをもらい、それをヒーリングに活用していこうというアイデアが芽生えた。実際に就寝前にベッドの上に横たわっている時に、太陽をビジュアライゼーションし、太陽からエネルギーを分けてもらうことを想像していると、自分の気が高まってきたのか、両手の掌が温かくなってきたのを覚えている。数日前から毎晩それを続け、太陽からエネルギーを分けてもらってから遠隔ヒーリングをしている。これまでは基本的に、身体の不調を訴える協働者の方や、両親や愛犬に遠隔ヒーリングをしていたが、昨日からは2人の祖母と叔父にも遠隔ヒーリングをすることにした。

いつからかわからないが、欧州にやってきてからも随分と、自分の内側にエネルギーが満ち満ちている感覚があり、それははち切れんばかりである。そのエネルギーを分けるというよりも、より巨大なエネルギーの流れの中にそれを返すことによって、さらに自分のエネルギーが高まり、循環が良好なものになっている感覚がある。遠隔ヒーリングの実践はその一環でもある。まさに太陽を含め、自己を超えた何かからエネルギーを得ながら、それを他者や社会、そして再度自己を超えた存在に向かってエネルギーを送り返すということを行っている。

この実践を意識し始めてから、心身の状態がさらに良い。他者治癒は自己治癒につながりうるということを実感する。これが仮に、自分のエネルギーを消費する形で行う治癒であれば、自分の心身は疲弊していたであろう。そもそも自分が行うヒーリングのエネルギーの根源は自己にあるのではない。そうした小さな存在に根源を持つヒーリングを行なっただけでは、施術者は疲弊する一方だろう。そうではなくて、自己を超えた存在にエネルギーの根源を持ち、そことのつながりからヒーリングを行なっていけば、エネルギーが枯渇することはなく、自分が疲弊することもない。

太陽という物理的な存在からエネルギーを分けてもらうだけではなく、情報的な存在からもエネルギーを得ることができる点が面白いところである。例えば、過去の偉大な作曲家や画家が残した作品や、さらには宗教家などが残した書物を通じて、自分の中にエネルギーが充満するのを感じる。彼らはもう物理的な次元には生きていないが、彼らが残したものには情報的なエネルギーが存在している。それにアクセスし、それを享受している自分がある。今後は、そうしたエネルギーを他者と社会の治癒と変容に向けて活用していくことをより意識していく。

昨日購入した書籍の中に、精神医学者ヴィルヘルム・ライヒが書き残した書物がある。ライヒは、オルゴン(Orgone)と呼ばれる自然界に遍在・充満するエネルギーを提唱したことでも知られている。まさに、太陽から発せられるエネルギーもこのオルゴン的一种かもしれない。それを直感的に感知していたがゆえに、自然と私は太陽からエネルギーを分けてもらうようなビジュアリゼーションと気功的動作を行っていたのだろう。

アリス・ベイリーが執筆した書籍を3冊ほど注文したのだが、そのうちの2冊に“Esoteric Healing”と“A Treatise on White Magic: The Way of the Disciple”というものがある。これらの書籍も上記の事柄に対する理解をより深めてくれることにつながるだろう。人間の意識に関する哲学的・科学的な探究を進めていけばいくほどに、ベイリーの書籍のタイトルが示す「密教的ヒーリング」や「白魔術」と呼ばれる実践で行われていることが理解可能なものになってくる。それらを現代の意識研究の観点からより俯瞰的に眺めてみれば、そこで行われている儀式やその効果のメカニズムが見えてくる。

昨日購入した34冊の書籍の中に、ケンブリッジ大学出版やオックスフォード大学出版から出版された意識に関する哲学的・科学的な学術書が数冊ある。それ以外の書籍も究極的には全て人間の意識の話だと言えなくもない。幾何学と音楽理論を越境した学術書もその1つだ。アントン・ウェバーンの作品を解説した書籍でさえもその1つだと言えるだろう。ここからより一層、人間の意識について探究を深めていく。様々な意識状態を含む意識の特性、そして個人の意識だけではなく、集合意識の特性にまで探究の範囲を広げていく。今日の読書もまた楽しみだ。フローニンゲン:2020/2/2 (日)06:59

気がつけば、時刻は午前7時を迎えていた。辺りは闇に包まれたままだが、その静寂さが自分の心を落ち着ける。闇の中に偏満する音と色を感知しよう。闇に固有なエネルギーを分けてもらおう。それは自分の養分となり、活動に向けた弾みになっていく。

今朝はいくつかの夢を見ていた。今後の夢の振り返りに関しては、少し工夫をしたいと考えていたところ、ちょうど昨日購入したアーノルド・ミンデルの書籍に何かヒントがあるだろう。ミンデルの書籍は過去に1冊ほどしか読んだことがなく、それはジョン・エフ・ケネディ大学に在籍していた時のことだったので、今からもう8年か9年前のことになる。そうしたことから、昨日は6冊ほどミンデルの書籍を購入した。これらの書籍を一通り読む頃には、ミンデルの知識体系と思想が自分の内側に滲み出し始めるであろう。

夢の中で私は、日本のある小さな書店で模擬試験を受けることになっていた。その書店は、スーパーの一階にあるぐらいの大きさである。店内の明かりは明るく、時刻は午後あたりだと思われる。その書店で模擬試験を受けるのは私だけではなく、その他にもたくさんの人がいた。見ると、年齢もバラバラであり、基本的には中学生や高校生が多いが、中には小学生や幼稚園生もいた。

書店に到着して自分の席を探し始めたが、どうも自分の席が見つからない。しばらく店内をウロウロしてようやく自分の席を見つけた時には、試験開始時間ギリギリになっていた。

長机の上に解答用紙が置かれていて、そのうちの 하나가自分の解答用紙だと気づいた。席に着席するや否や、トイレに行きたくなってしまい、どうするか考えていたところ、隣に座っていた友人が挙手をし、試験監督を務めていた、高校時代にお世話になっていた女性の英語教師に確認をした。すると、トイレに行ってもいいが、そこで試験終了になってしまうとのことだった。この試験は不思議なことに、試験開始時間はバラバラであったから、彼はもう途中まで問題を解いているようだった。

一方、私はまだ何も手をつけていない状態だったので、名前を書き、試験を始めてからトイレに行こうとして、そこで試験終了と見做されたらたまったものではないと思った。そのため、名前を書く前にトイレに行くか、もうそのまま試験を始め、60分を乗り切るかを考えた。トイレには念のため行ってお

こうという程度だったので、私はすぐに試験を始めることにした。しかし鉛筆を握った瞬間に、やはりトイレに行っておこうと思い、席を立った。

そこから店内を歩くと、店のレイアウトが突然変わりだし、自分の席がどこだかわからなくなってしまった。そこで私は、試験監督の先生に相談をし、学生らしき試験官に声をかけ、自分の席を特設してもらうことにした。最初私は、小学生の女の子の前に席を設けてもらおうかと思ったが、見るとスペースが相当に狭いことがわかったので、私は別の場所を探した。最終的には、壁に向き合ったスペースに席を特設し、左隣に小中学校時代の友人(AW)がいる場所で試験を受けることにした。私が最初に受けた科目は数学だったように思う。その次に世界史の記述試験があり、問題の難しさには驚いた。

試験終了後、世界史に詳しい友人に出来を聞いてみたところ、解答用紙の裏面はもう真っ白のことであった。そこで夢の場面が変わった。次の夢の場面では、高校1年生の時のクラスメート(KA)の家に遊びに行くことになっていた。彼が一人暮らしをしている家は一風変わっており、隠れ家的な家だった。

時刻はもう夕暮れ時を迎えていて、辺りは随分と薄暗くなっていた。周りの世界が濃い赤紫色から濃い茶色のように変わっていった。

彼の家に行くためには、洞窟のようなパイプ管を通っていく必要があり、そこを抜けた先に彼の家の入り口が見えた。入り口はマンホールのような蓋で閉じられており、一緒にパイプ管を潜り抜けてきた彼は、すぐに入り口の蓋を開けた。一瞬中の様子が見えたが、彼は荷物を置いてすぐにどこか別の場所に行こうと持ちかけてきた。私はそれに賛同したが、彼の家の中がどうなっているのかは気になるところだった。

荷物を置いた彼はすぐに入り口の外に出てきた。すると、その場がいきなり彼の家の玄関と化し、目の前にガラス張りの立派な本棚が現れた。天井まで届きそうな立派な本棚の一つには、洋書がびっしりと並んでいた。背表紙を見ると、それらは全て英語で書かれており、他の言語の書籍は置かれていないようだった。そして、手前の本棚を見ると、そこには相当古い日本の文学全集が置かれていた。先ほどの本棚の英文タイトルは英語であったからすぐに理解できたものの、今度の文学

全集に関して言えば、日本語の草書体のような形で書かれていたため、タイトルの判読が難しかった。

すると、私の右横に、小中高時代の友人(HY)が現れ、彼も似たような文学全集を持っていると述べた。それらはとても高価そうであり、彼らはどこでどうやって手に入れたのだろうかと思いつた。そこから私は、家の前で待っていた友人(HO)の車に乗って移動することにした。私の手にはやたらと荷物があり、ヤシの実のようなものがたくさん入れられた紙袋を2つ持っており、その他にも自分の着替え類などが入ったリュックサック、そして書籍が入った紙袋があった。そこで夢の場面が変わった。

最後の夢の場面は比較的短い。夢の中で私は、高校時代の友人(HH)と一緒に、ティラミスの食べ比べをしていた。私は普段甘いものを一切食べないために、ティラミスについて詳しくないのだが、味覚が人よりも発達しているようであり、その食べ比べは容易であった。しかし、彼にとってはそれが難しかったようであり、高級ティラミスとそうではないティラミスの味の差がわからないようであった。こだわりが滲み出ているティラミスには、作り手のエネルギーが生き生きと存在しており、市販の大量生産されたティラミスは、完全に精気を失っているように感じられた。フローニンゲン:2020/2/2(日) 07:58

5509. 意識拡張現象と空なる人間存在

時刻は午後8時半を迎えた。今週も終わりを迎え、明日からは新たな週を迎える。終わりを迎えるという観点で今日を振り返ってみた時に、午前中にふと、太陽の寿命について思いを巡らせていた。調べてみると、太陽の寿命は残り半分ほどになっているらしい。とは言っても、残り数十億年ほどの寿命があるらしいが、逆に言えば、それくらいの時間が経つと、太陽は消滅してしまう。太陽が消滅したら、地球上の生命が死滅してしまう可能性が高いとのことである。

今から数十億年後というのは気の遠くなる話であり、実際に自分の気が遠くなっていった。そこでふと、「気が遠くなる」という現象は、意識拡張現象だと言えるのではないかと気づいた。

この感覚。こうした気の遠くなるような時間軸で思考することによってもたらされる意識が拡張した感覚は、自己超出現象を体験している時の感覚と非常に似ている。なるほど、宇宙について広大な

時間軸やスケールで思考を巡らせることは、自己超出の疑似的体験になることがわかり、これは意識拡張の鍛錬として活用可能であることがわかった。

本日、ステファン・ホーキング博士が執筆した“A Brief History of Time”を一読し、ちょうど宇宙に対する関心が強くなってきているので、以前から注目していたケンブリッジ大学出版から出版されている宇宙に関する図鑑的な書籍を購入しよう。その際には、脳に関する図鑑的な書籍も合わせて購入しようと思う。宇宙に対する関心の一環として、今年は難しいかもしれないが、来年の秋や冬にはオーロラを観に行こうかと思う。これはぜひ実現させたい。

その後も宇宙についてぼんやりと考え事をしていて、宇宙の一つ一つの天体が一つの巨大な生命体の微細な細胞の一つに過ぎないというイメージが芽生え、そのように考えてみると、思わず息を呑み、だんまりしてしまった。宇宙に存在する無限のフラクタル構造が知覚されたかのようにあり、その知覚体験後、自分に意識が戻ってくると、静けさが内側に広がっていた。

今後宇宙開発が進み、プライベートジェットならぬプライベートシャトルのようなものが開発されるのだろうか。そうしたものが開発されれば、地球人が簡単に他の星に出かけたり、そこで生活することが可能になるかもしれない。その時には、「惑星旅行ガイド」や「惑星生活ガイド」のようなものが出版されるのだろうか。ただし、もうその頃には紙媒体の書籍など古代遺跡の品のように扱われているかもしれないが。

夕食を摂り終えた後、意識と身体について考え事をしていて、身体はいつか朽ち果て、特に脳の機能停止によって意識も消滅すると思われるが、仮に脳を含めた身体を全てヴァーチャル空間に移行させてしまったらどうなるのだろうかと考えていた。人間の身体は未だ進化が進んでおらず、他の動物とほとんど変わらない。簡単に故障もするし、消化活動にエネルギーを大量に使うなど、知的活動においては足かせになっている。そうした問題を解決するために、ひょっとすると、「ヴァーチャルボディ」なるものが生み出され、そこに意識をつなぐような時代がやってくるかもしれない。そうなってくると、人間は永遠の命を手に入れることになってしまう。永遠なる命を手に入れること。これもまた多大な苦を人間にもたらすだろう。人間は複雑なのだから単純なのだからわからなくなってくる。ああ、そもそも人間は、複雑でも単純でもなく、空(くう)なる存在だったか。フローニンゲン：

2020/2/2(日)20:45

今朝は少しばかり早く、午前1時半に起床した。目覚めた瞬間に、十分な睡眠を取ったという感覚があり、時刻を確認するとそのような時間だった。

昨夜の就寝前もいつもと同じように、念入りに身体を緩め、自他ヒーリングを実施していたためか、すこぶる快眠であった。この時間帯に起床することができれば、創造活動と読書に思う存分時間を充てることができる。今日は、“The Tibetan Book of the Dead” “Myths & Legends: An illustrated guide to their origins and meanings” “The Writings of William James”の3冊を読み進めていきたい。最初の2冊に関してはざっと全体を読み通し、最後の1冊は自分の関心のある箇所のみを読み進めていく。今日も創造活動と読書に集中して取り組めるような気配がする。

ここ最近特に意識しているように、呼吸に意識を向け、身体に意識を向けながら身体を緩めた後に、音楽空間や言語空間にアクセスしていく。昨日、催眠研究で大きな功績を果たした学者を何人か調べ、彼らの主著を近いうちにまた購入してみようかと思った。中でも、ジェイムズ・ブレイドに関心が向かった。

現在、意識状態について探究を進めており、その背景には、特殊な意識状態が治癒や変容を促す鍵を握っていることが挙げられる。そうしたことから、催眠中の意識状態、とりわけ催眠トランス状態がどのようなものであり、それがどのように生じるのかについて調査をしてみようと思ったのである。ブレイドがかつて注目した「一点集中法」なるものを自ら実験的に試してみようと思う。ブレイドは、フランツ・アントン・メスメル(1734-1815)の催眠療法を実践するあるメスメリストが患者の頭に手を乗せたときに、患者の目が上を向きながら一点集中したような状態になっていたことに注目した。そこでブレイドは、一点に視点および意識を集中させることが、通常意識状態から、トランス状態へ導く鍵だと考えたのである。

ブレイドに大きな影響を与えたメスメルについて調べてみると、色々と興味深い人物であることがわかった。メスメルはモーツァルトと同時代人であり、ウィーン大学で医学を学び、その博士論文『人体への惑星の影響について』がとても興味深い。メスメルは、月や惑星が人体や病気に及ぼす影響について研究をし、人体の中にも潮の干満があり、その原因は太陽や月の運動であると提唱し

た。この点は、まさにクラニオセイクラル・バイオダイナミクスの発想とつながるものがある。メスメルが提唱した動物磁気は、ヨーロッパの自然魔術の流れを受けており、現在ヨーロッパにいる自分としては、ヨーロッパの魔術信仰には以前から関心があった。このテーマもこれから深めていこうと思う。
フローニンゲン:2020/2/3(月)02:31

5511. 今朝方の夢とゲシュタルト能力

時刻は午前11時を迎えた。今朝は午前1時半に起床し、そこから読書と作曲が大いに捗り、読書に関しては、“The Tibetan Book of the Dead” “Myths & Legends: An illustrated guide to their origins and meanings” “The Writings of William James”の3冊に目を通すことができた。また、作曲に関してもすでに7曲ほど詩のような曲を作った。これからまた作曲実践に取り掛かりたいと思う。

今朝方にふと、自分の思考は連想的に広がっていく性質を持っていることに気づいた。おそらくそうした性質は誰しもの思考においても当てはまるものだと思うが、自分の場合は特にその性質が強いように思う。そのように書いた瞬間に、それを示唆するように、今朝方の夢についてふと思い出した。

夢の中で私は、先日に終えたオンラインゼミナールと同様に、補助教材として、受講者の方々からいただいた質問に対して音声ファイルを作成していた。とりわけ積極的に質問をしてくださるある方の質問に対して一つ音声ファイルを作った後、それを補足するアイデアが思い浮かび、すかさず別の音声ファイルを作っていた。そしてまたそれに捕捉するアイデアが芽生え、さらに新しい音声ファイルを作成しようとしている自分がいた。そのような夢を今朝方見ていた。

最近、意識に関する探究を進めていくに当たって、再びゲシュタルト心理学の知見を参考にしている。人間は何かを埋め合わせるように認知的ゲシュタルトを形成するようだ。ここに治癒と変容のヒントがある。ゲシュタルトが構造的に新たなものになっていくときに治癒と変容が起こると言えるかもしれない。逆に言えば、治癒と変容は、新たなゲシュタルト構造の出現と言えるだろう。この点において、私たちが本源的に持つゲシュタルト形成能力を活用して治癒と変容を支援していきたいと思ったのだが、一つ留意する点がありそうだ。

美学者のウィルヘルム・ヴォリンガー が指摘しているように、人間はかつて何もない空間を恐れ、それを必死に埋めようとして装飾を施したことを考えてみると、人間には内在的に物理的にも認知的にも余白を避けようとする傾向があるのかもしれない。ただし、現代人は余白を埋めようとする傾向が過剰であることに留意しなければならない。治癒と変容を支援する際に、現代人のこうした過剰な余白埋め合わせ傾向と折り合いをつけていく必要がある。

発達理論の観点を用いると、どうやらゲシュタルト能力は発揮される領域が無数に存在しており、その領域に応じて能力の質が変化するようだ。また、置かれている環境やその時の心身の状態によってもゲシュタルト能力は変動する。それらは全て、ゲシュタルト能力の変動性と呼んでもいいだろう。発揮される領域ごとにゲシュタルト能力が異なるというのは、専門領域と非専門領域における思考のあり方を見れば明らかであり、元気な時と疲れている時とでは景色の見え方が違うのは、心身の状態によってゲシュタルト能力が変化することを示している。

現代の脳科学においてゲシュタルト能力がどのように扱われているのかを調べてみたところ、どうやらゲシュタルトは、脳の神経回路の自発的な揺らぎの産物であるとのことである。これは大変興味深い。上述の通り、ゲシュタルト能力には変動性があり、それは脳の自発的な揺らぎと結びついているようなのだ。ゲシュタルト能力を高め、治癒と変容を実現していくに際して、この点も考慮に入れる必要があるだろう。フローニンゲン:2020/2/3(月)11:12

5512. 今朝方の夢

時刻は午前8時に向かってゆっくりと進行している。今、少しずつ辺りが明るくなってきた。これまでは8時を過ぎてからようやく明るくなり始めていたことを考えると、日の出の時間はどうやら早くなっているようだ。季節が巡ってゆくリズムを感じるができる。

今朝も深い睡眠を取ることができ、起床直前にいくつか印象に残る夢を見ていた。夢の中で私は、市役所のような場所にいた。そこは間違いなく日本だった。市役所の一室で、私は何人かの友人たちと一緒に国語の試験問題を解いていた。その部屋には試験官はおらず、その場にいた私たちはあれこれと雑談をしながら問題を解いていた。すると、中高時代にとっても成績の良かった女性友達(YY)が私に何かを訴えかけるように泣き始めた。私に何か大切なことを伝えたかったらしく、思わ

ず感極まっているようだった。私は、彼女が何を伝えようとしているのか勘付いていたが、それに気づいていない振りをしていた。

彼女はしばらく泣くと、感情を全て外に出すことができたのか、穏やかになった。するとそこへ、小中高時代の友人(YK)が現れ、どうやって成績を伸ばしたらいいのかを私たちに質問してきた。私は彼の成績が学年で大体40番ぐらいであることを予想し、その予想が合っているかを確かめた。すると友人は驚いた表情をして、その予想通りだと述べた。そこから女性友達と私とで、彼に対して勉強法に関して色々とアドバイスをした。

私たちが勉強の話をしていると、周りにいた友人たちも勉強に対して意欲を燃やし始めた。中には、司法試験を受験することをもう諦めてしまっていた友人(MS)がいて、彼は私たちに触発されて、もう一度試験に挑戦してみる気になったと述べた。どうやら私たちは、彼らの勉強意欲に火をつけたらしい。その後私は部屋を後にし、市役所の受付で、何かの申請を行おうとした。受付は若い中国人女性が切り盛りしており、彼女にパスポートの提示を求められたところ、パスポートをすぐに提示することはできた。そして手続き書のようなものを渡され、そこに氏名、生年月日、今日の日付、自分のパスポート番号を記入することになっていた。私は今日の日付がいつなのかわからず、隣にいた友人(YU)に尋ねた。そして自分のパスポート番号を記入するためにパスポートを開いてみると、なかなかその番号が記載されているページが見つからなかった。

後ろには列を待っている人たちがたくさんいて、もう一列ではなく、二列、三列となって、私の横からいろいろな人がその受付女性に相談事をし始めた。私はそれを見て、少し焦ってパスポート番号を探した。だが、探しても探してもそのページは見つからなかった。すると、私の後ろから小中高時代の親友(SI)が声をかけてきた。しかし、私は今取り込み中だったので、少しばかり邪険な態度を彼にとってしまい、彼は何かを言いかけたところで引き返してしまった。

そこでようやくパスポート番号が無事に見つかり、それをすぐさま用紙に記入して、受付の女性に渡した。そこで一旦その場を後にし、自分の名前が呼ばれるまでソファにでも腰掛けて待つことにした。するとそこに、先ほど後ろから声をかけてきた親友がいたので、先ほどの話の続きを聞くことにした。そのような夢を今朝方見ている。

その他に覚えている場面としては、友人と何か口論になり、鼻水をかんだティッシュを彼に投げつけた場面があったことを覚えている。どういうわけか、風邪をひいている時の黄色い鼻水が出ていて、それがティッシュからこぼれ落ちそうになっていた。フローニンゲン:2020/2/4(火)08:05

5513. 今朝方の夢の続き

小鳥たちが美しいさえずりを上げている。午前8時を少し過ぎた今、辺りはもう随分と明るくなった。今朝は早朝に少しばかり雨が降っていたが、今はもう雨は止んでいる。窓ガラスに付着した雨滴を眺めながら、遠くの空を眺めている。雲がゆっくりと進行しており、雲のない箇所には薄い青空が見える。今日もまた、外側の世界のリズムと調和をしながら自分のリズムで1日を過ごしていこうと思う。

リズムに揺らぎがあるのは当然であり、適度な揺らぎはむしろ好ましい。一方で、リズムの構造を完全に破損させてしまうような過度な変化をリズムに持ち込まないようにする。

小鳥たちの美しく鳴き声を聞きながら、今朝方の夢の続きを振り返りたい。夢の中で私は、名古屋と京都が合体したような街にいた。その街には老舗のお茶屋さんがいくつもあり、それは京都にある店のようだった。ちょうど時刻は昼時だったので、私はどこかお茶屋さんに入り、軽く昼食を食べようと思った。ところが、どこの店も混んでおり、なかなかいい店を見つけることができなかった。また、昼食後には大学の授業に参加することになっており、あまり時間もなかったので、近くにあった定食屋の暖簾をくぐった。

すると店内に、高校時代のクラスメートがいた。彼の隣には見知らぬ男性が座っており、どうやらその人は彼の友達のようなようだった。彼はすでに昼食を食べ終えており、私はあまり時間がないことを彼に伝えると、そうであれば彼が食べていた蕎麦を注文することを私に勧めてくれた。その蕎麦は注文してすぐに出てくるらしく、時間のない私にはぴったりだと思った。早速、調理場にいた女将に蕎麦を注文したところ、本当にすぐに蕎麦が出てきて驚いた。さらに驚いたのは、蕎麦が小さな茶飲みの中に入れてられており、その蕎麦は半液体状態だった。その形状と量の少なさに私は驚いたが、急いでいて、尚且つ軽く昼食を済ませたいと思っている自分にとってはそれで問題ないと思った。私は半液体状の蕎麦を口の中に流し込み、すぐに店を後にした。するとそこで、自分の左腕に腕時計が巻かれていることに気づいた。

普段私は、アナログ時計であれば、秒針の動きが腕の血液の流れや神経の動きに影響を与えることを避けて時計をしない。また、デジタル時計であってもデジタル信号によって身体の微細な流れが影響を受けてしまうことに気付いているために、デジタル時計もしない。何か特別な日には、父から譲り受けた時計をすることはあるが、その時も時計の針を動かさないようにして、単なる飾りとして時計をつけるようにしている。そんな私の左腕に巻かれていたのはデジタル時計であり、時計を見ると、大学の授業に間に合わないような時間になっていった。

すると突然、画面が時刻を表示するモードから、地図を表示するモードに変わった。地図上に自分の位置が赤く丸いアイコンで点滅していた。地図をよくよく見ると、他にもいくつか赤く丸いアイコンがあり、近辺をうろろうろしている様子がわかった。一つだけ、自分の方向に向かってくるアイコンがあり、私は直感的に、その人物は私を捕まえにきたのだと思った。そのため、私はその人物から逃げようとしてその場を後にした。

向かった先は最寄駅である。そこから名古屋駅まで行こうとしていた。

近づいてくるアイコンの進む速度が速く、これでは捕まってしまうと思った私は、空を飛んで最寄駅に向かうことにした。ところが、上空は風が強く、動きをコントロールすることが難しく、さらには高度を調節することも非常に難しかった。

私は地上から20mぐらい上のところを飛ぶことにし、茶屋街の近くにあった緑豊かな公園の上空を飛んで移動することにした。ところが、その時にふと、せつくなのでその公園を歩いて進んでみたいという思いが現れた。その思いに逆らうことなく、私は地上に降りて、公園内を歩いて進むことにした。本当であればそのような時間はなかったのだが、どうしても公園の空気を吸いたかったのである。その公園には、端から端まで突っ切る一本の遊歩道があった。その道をゆっくりと歩いていると、道の両脇に様々な化物が身を隠していることに気付いた。それらの化け物のいくつかは私を脅かすために姿を現したが、私は驚くこともなく、彼らに挨拶をするような感じで普通に歩き続けた。

その公園を囲うようにして水路が張り巡らされており、私の視線は水路の方に植えられていた木々に向かった。そこにも木にゆかりのある化け物がいて、それはひっそりと身を隠していた。

遊歩道を最後まで歩き切ったところに立派な門があり、その門を潜って公園の外に出た。その時に私はハッとして、急いで最寄駅に向かっていく必要があると思った。そこで私は再び空を飛び始めた。

相変わらず上空は風が強く、高度と方向の調節が難しかった。なんとかうまく空を飛び、最寄駅前の上までやってきた。駅周辺は随分と現代的であり、様々な商業ビルが密集していた。駅に無事に到着した私は、駅構内に急いで入った。すると駅構内には、バスやタクシーを待つ人でごった返していた。彼らの半分は名古屋駅に行くようであり、もう半分は反対方向に向かうようだった。

私は駅員さんに、名古屋まで一番速く行ける方法を尋ねた。すると、電車がいいとのことだったので、電車のプラットフォームを尋ねた。すると、名古屋駅に向かう列車にはこの駅では乗れず、少し歩いた先にある別の駅から乗る必要があると教えてもらった。また移動しなければならないことを面倒に思ったが、それは仕方なかったので、すぐさま私はその駅に向かおうとした。そこで改めて時間を確認すると、もう完全に大学の授業には間に合わず、その授業はいつも休みがちであったから、単位が危なそうだと思った。とは言え、一応できる限り大学に行こうと努力してみようと思い、そこから階段を降りて外に出て、駅員さんに教えてもらった駅に行くことにした。すると、階段を降りている最中に、精神が少しおかしい男性が階段の踊り場に立っていて、何か独り言をぶつぶつと述べていた。

私はその人に関わらないようにして、その人の横を通り過ぎて行った。しかし、その男性は持ち物の布袋を階段の手すりにかけており、私とその布袋の近くを通った時に風が立ち、その風によって袋が落ちてしまったのである。その男性はそれを怒って、私を追いかけてきた。私は逃げるようにして階段を急いで降りていき、無事にその男性に捕まらずに済んだ。不思議なことに、階段を降りた後に、今度は上の階に登るための棒があり、その棒を辿って私は上に向かっていった。途中で見知らぬ男性たちと出会い、彼らと少しばかり言葉を交わしたところで夢から覚めた。フローニンゲン：

2020/2/4(火)08:55

5514. 本日の振り返り

時刻は午後9時を迎えようとしている。週の始まりの月曜日が、静かに終わりに近づいている。

振り返ってみると、今日は天気が良く、太陽からエネルギーを大いに分けてもらう形で自分の取り組みに従事していた。毎日の身体運動、ヒーリング、食実践が三位一体となり、心身の状態がすこぶる良い。エネルギーが溢れんばかりに湧き出てくるという感じではなく、もはや自己はエネルギーそのものである。そのような感覚がする。

午後にふと、今朝方の夢の中に現れた女性友達と、夢の中でシャドーワークを一緒に行うべきだったのではないかと思った。それは少し突飛な考え方のように思えたが、夢の中で現れる人物は、単に自分のシャドーの投影として現れているだけではなく、ひょっとしたらその人物が私の夢にシャドーを投影する形で現れている可能性もあるのではないかと思ったのだ。そうであれば、シャドーワークを求められているのは私だけではなく、夢に現れた人物も含まれることになるのではないか。そのようなことを考えていた。仮に夢の中で自意識を保つことができれば、あるいは夢を目撃する者としての意識をより明晰に持つことができれば、夢の中で夢に現れた他者に対してヒーリングを行うことができそうだ。

夕方に、博士課程の進学について考えを巡らせていた。タイミングとしては、欧州永住権を取得してから、以前言及したオンラインとレジデンスを組み合わせた博士課程に進学したいと思う。テーマに関しても徐々に明らかになってきており、あとはそれを博士論文としてまとめあげたいのかどうかという内発動機の強さを確認していきたい。

博士論文のテーマを構成するいくつかのキーワードを書き出し、それに関係する書籍をまた色々と探していた。すると、“Music and Altered States: Consciousness, Transcendence, Therapy and Addictions”と“Music and Trance: A Theory of the Relations Between Music and Possession”という興味深い書籍を見つけ、それらを近々購入したいと思う。

この2週間で50冊ほどイギリスとドイツの書店に書籍を注文した。そのため、昨日アマゾンから連絡があり、先日の大量注文がビジネス目的であれば、それ相応の割引プログラムがあるとのことだった。今のところそれを利用することは考えていないが、来月にも10冊から20冊程度を購入する予定だ。現在、知識体系の網の目が密になってきていることと、自分の心身の状態がすこぶる良く、さらには異常な集中力を発揮することができているため、毎日1冊から3冊程度書籍を読んでいる。それに加えて、毎日コンスタントに10曲ほど短い曲を作ることができている。

前者の実践を言語空間にアクセスする左脳的な活動だとすると、後者の実践は音楽空間にアクセスする右脳的な活動だと言えるだろうか。片方の実践を集中してしばらく実践した後にもう片方の実践を行い、それぞれを1日の中で何度も行き来している。そうすると、疲れなど全くなく、それでいて集中力が絶えず維持される形で二つの実践を行うことができる。

朝の4時か5時、あるいは6時から、夜の9時頃までずっとそれらの実践の行き来で終わる日もある。協働プロジェクト関係のミーティングがない日は、本当にそれらの実践の行き来で終わる。協働プロジェクト関係のミーティングがあったとしても、それは1時間程度であるため、その他の時間はほぼ全て二つの実践の往復運動に充てられる。そうした往復運動を下支えしてくれているのが、食実践、早朝のヨガ、日中全時間に渡る緩やかな呼吸法、午後の仮眠、夕方のジョギングなのだろう。フ
ローニンゲン:2020/2/4(火)21:11

5515. 旅程の変更と密教としての作曲

時刻は午前7時半を迎えようとしている。ここ最近では、この時間帯からでも空が少し明るくなり始めている。今この瞬間の気温はマイナス1度とのことだが、それほど寒さを感じない。天気予報を確認すると、今日は快晴とのことなので、昨日に引き続き今日もまた、夕方に買い物がてらジョギングに出かけたい。

昨夜、エジプト旅行に向けて少しばかり調べ物をしていると、エジプトに行くのはもう少し先の方がいいかもしれないと直感的に思った。それは本当に直感的なものであり、具体的に述べることはできないのだが、エジプトに行くのはどうやら今ではないという感じがしたのである。それと同じことがベルギーに対しても当てはまるようだった。当初はベルギーに旅行し、その翌月にエジプトに行く予定だった。しかし今となっては、2つの国に呼ばれている感じがしないため、それらの国に行くのはもう少し先にしよう。旅行に行く代わりに、今月と来月は作曲実践と読書に専念したい。とりわけ読書に関しては旺盛に行う。ここ最近50冊以上の書籍を購入したので、それらを読む時間を十分に取りたい。それらの書籍をまずは一読し、良い書籍に関しては再読を行う。そうしたことを次の旅まで徹底して行う。ベルギーとエジプトに行くことを先延ばしにしたので、次の旅は4月の中旬あたりのギリシャ旅行になるだろうか。今のところ、ギリシャには呼ばれている感覚がある。こうした直感を大切にしながら旅先とタイミングを決めていきたい。

昨日の夕方ふと、いつか作曲とヒーリングを組み合わせたワークショップを行ってみたいと思った。自己表現としての作曲とヒーリングとしての作曲を組み合わせたものである。作曲とヒーリングに関する理論的なことを簡単に紹介し、実際に曲を作ってもらうことによって自己治癒を実感してもらようなイメージが頭の中にあった。

作曲を学んで思うのが、作曲というのも一つの密教領域であるということだ。確かに作曲理論に関する書籍は世の中に無数にあるが、それらはあくまでも顕教的なものであり、作曲に関する秘儀的な技術については密教的なものになっている。これは自分が作曲を学ぶ時にも、そして今後作曲を他者に教えることがある場合にも留意しておきたい点である。

今日もまた、顕教と密教としての作曲実践を前に進めていく。理論書を参照することと実践を行うことを通じて、顕教としての知識体系と密教としての技術体系を獲得していこう。フローニンゲン：

2020/2/5(水)07:37

5516. 今朝方の夢

時刻は午前8時半を迎え、辺りはすっかり明るくなった。ちょうどこの時間帯は小鳥たちが美しい鳴き声を上げており、その声にすっかり癒される。

今日は雲一つない晴天であり、とても清々しい。気温は少しばかり低いですが、その分、心身を目覚めさせる清々しさが広がっているように感じる。

今朝方も少しばかり印象に残る夢を見ていた。夢の中で私は、高校時代の友人(TK)に似た数学講師の授業を聞いていた。そこは予備校のようであり、その若い講師は熱弁を奮って授業を進めていた。ちょうど私は黒板の真ん前の席に座っていて、講師の熱意が伝わってきた。授業が始まっしばらくして、私の机の上の隅っこに、携帯端末のようなものがあることに気づいた。私はそれに手を伸ばし、何かと思って機械を操作を試してみた。

するとそれは、出席確認用の機械であることがわかった。私とその機械をいじっていると、講師の彼は、「今頃？」というような笑みを浮かべていた。授業が始まってもう随分と時間が経っていたので、今頃出席入力をして出席扱いにならない可能性があると思つた。とは言え、一応出席入力を

しておこうと思って機械を操作してみると、画面に数学の問題が現れた。それは一見すると、意味をなさない数列なのだが、どうやらその背後には暗号的な規則が隠されているようであり、それに気づき、暗号を解読した後に得られる数字を入力すると、ロックが解除されて出席入力ができるようだった。

私はとても面倒だなと思いつつも、暗号解読に意識を向けた。すると、ちょうど私の真ん前で講義をしていた講師が、激しく黒板に図を描き始めた。見ると、色の付いたチョークで円や扇形を描き、それらの図形の空間をピンクや黄色のチョークで塗っていった。講師が今解いている問題は漸化式の問題であり、それを図形的にアプローチするというのはとても斬新だと思った。

私は出席入力の手を止めて、講師がどのようにその問題にアプローチするのかに意識を向けることにした。すると、どうやらそれは講師の思いつきのアプローチだったらしく、結果としてはうまくいかないようだった。結局、平凡な解法で問題が淡々と解かれていき、少し残念だった。するとそこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面で覚えていることはあまりない。古い家屋を改築した校舎の入り口に私は立っていて、突然の雨に見舞われた。ちょうど校舎の横にはレストランがあり、その前に折り畳み傘がいくつか開いた形で地面に置かれていた。そのうちの一つを私は手に取ったが、それは誰か別の人の持ち物だったので、そとそこに戻し、小走りで校舎の中に入っていった。

校舎の階段を上がり、2階に到着すると、取り外しが可能な扉が開かれていき、そこに高校時代の漢文の先生がいた。どうやら先生は、今は技術家庭を担当しているらしかった。先生の手招きもあって、私は先生が座っている机の前の席に腰掛けようとすると、もっと近くに来なさいと先生が述べた。そこで私は先生の横の席に腰掛け、そこから私は、欧米での8年間の生活についてインタビューを受けることになった。何かから話していいか一瞬迷ったが、日本を離れたきっかけについて話し始めようとしたところで夢から覚めた。フローニンゲン:2020/2/5(水)08:48

5517. 食事と脳:水と安らぎ

時刻は午後8時半を過ぎた。今日も晴天に恵まれ、1日を通して太陽の光のように力強いエネルギーが内側に漲っていた。もちろん、雨であろうが曇りであろうが、はたまた雪であろうが、自分の内

側のエネルギーの強さは変わらない。確かに、それは外界に呼応して変動はするが、エネルギーが高い状態を維持し続けていることに変わりはない。そうした心身の状態が絶えずある。

ここ数日間はほぼ毎日、イギリスやドイツから書籍が届く。50冊近く書籍を注文したのだから当然と言えば当然である。今、届けられる書籍とほぼ同じペースで次から次に書籍を貪るように読んでいる自分がいる。今日もまた数冊ほど購入したいと思う学術書を見つけることができた。

英語空間における情報の豊かさには本当に驚かされる。そして、こうした知の体系が私たちがアクセス可能な英語空間に広がっていることに有り難さを覚える。

本日は、ディーパック・チョップラの“Quantum Healing: Exploring the Frontiers of Mind/Body Medicine”を読み進めていた。本書の中で、MITの研究者の発見事項として、脳の化学物質の可塑性についての言及があった。それは非常に興味深く、たった一回の食事で脳内の化学物質が大きく変化することである。食生活を変えて以降、それは実体験として日々実感している。そして、良質な食事を摂ることと断食を併用させることをしばらく続けてみることによって、その継続がもたらす大きな効果には驚かされてばかりである。何を食べるか、何を飲むか、そして何を食べないのかを含め、自らの身体に取り入れるもの・取り入れないものが心身の状態に大きく影響を与えるのは、脳が敏感にそれに反応するからなのだ。

夕方、地球の7割が水で構成されており、私たちの身体も7割から8割が水で構成されていることに改めて注目していた。私は真夏でも浴槽に浸かるようにしており、湯船にプカリと浮かぶことは、心身を単にリラックスさせるだけではなく、そこで適度な揺らぎが身体にもたらされ、心身の治癒と調整にもつながっている感覚がある。

母胎の中の安心な環境に一時的に戻ったかのような安らぎをそこで得ることができる。こうした感覚を毎日の入浴の最中に得ていること、またそれを意識的に感じようとしていることが、日々の心身の状態及び睡眠の質などに多大な影響を与えているように思う。

今この瞬間も波の音が入った音楽をかけており、就寝前にもそれを聴いている。ベッドの上でそれを聴きながら遠隔ヒーリングや自己ヒーリングを行い、その後入眠するようにしている。波の音などの自然音にも、母胎の中の感覚を思い出させてくれる効果があるようだ。

明日も旺盛に読書をし、そして創造活動にも旺盛に打ち込んでいく。明日がやってくるのが本当に楽しみだ。フローニンゲン:2020/2/5(水)20:52

5518. 今朝方の夢

時刻は午前5時半を迎えた。今日も1日が静かに始まりを迎えた。この時間帯の外はまだ暗い。とは言え最近では、日の出時間が随分と早くなった。あと2時間ほどすれば、辺りも明るくなってくだろう。

今朝方は少々印象に残る夢を見ていた。忘れないうちに早速それを書き留めておきたい。

夢の中で私は、ある知人の女性と一緒に車に乗って最寄り駅に向かっていた。その方は、私のオンラインゼミナールに継続的に参加してくださっている方であり、車中ではゼミナールの内容について話していた。

駅近くまでやってくると、ちょうど踏み切りで捕まった。運転しているのはその方であり、なぜだか私たちは、ここで止まってはならないと思い、踏み切りが降りて来ているところを突っ切って反対側に行こうとした。私たちが踏み切りを突っ切ったのは、別に急ブレーキをかけて後ろの車に迷惑をかけることを防ぐためとかではなく、もっと社会的な理由があった。私たちが反対側に急いで行かなければ、この世界は間違った方向に進んでいく、そんな思いがあった。ある意味、私たちの行動は、正義心に裏付けられたものだったのである。

踏み切りの警報がなっているにもかかわらず反対側に突っ切った私たちは、踏み切り近くで待機していた警察に止められた。パトカーから1人の警官が降りて来て、私たちの車のナンバーを確認した。そこでも私たちは、警察を振り切って先に進まなければならないと思い、そこからまたアクセルを踏み込んで車を走らせた。すると、駅のロータリーの脇にあった交番から警官が何名か出て来て、私たちを止めようとしたが、私たちはお構いなしにそのまま逃走した。気がつくと、私たちの車はパトカーになっており、そこからはパトカーを宙に浮かせて、空を飛んで逃げることにした。1人の警官は相変わらず賢明になって地上を走って車を追いかけていた。その様子を空から眺めながら、私たちはどこかに向かっていた。

上空からの景色をもとにすると、それは広島辺りだった。私たちはパトカーを空高く浮かせ、比較的速い速度で移動していたのだが、地上を走る警官もなかなか体力と根性があり、なんとか私たちを見失わない程度の位置を保ちながら走り続けていた。これではちが明かないと思った私は、運転をしている知人に方向を指示して、そちらに向かって飛んでもらうことにした。ヘリコプターのように変形したパトカーの燃料が切れて来たこともあり、どこかで着地して、あとは別の交通手段で逃げようと思ったのである。

すると、眼下に人気の少ない駅を見つけたので、そこに向かうことにした。すると、先ほどまでは誰もいなかった後部座席に知人が現れた。彼は以前にフローニンゲン大学に留学しており、そこで知り合った間柄だった。

駅に到着したが、私たちはそこでパトカーから降りることをせず、引き続き宙に浮いていた。その時にはもうパトカーのような外観をしておらず、私たち3人が宙に浮かんでいるような格好であった。駅の真横に交番があり、交番の中に入らなければ駅の中に進めないようになっていたので、私たちは仕方なく交番の中に入った。私たちは引き続き宙に浮いていたが、警官たちも特に怪しむような素振りを見せず、下から私たちに気さくに声をかけて来た。何やら、今何人かの人物を追跡しているとのことであり、それは私たちのことだった。1人の若い男性警官が、交番の上空に浮かんでいる物体を見て欲しいと述べた。

見ると上空に、ダンサーのような何体かの人形が一方向に回転していた。その人形の回転を見て、どちら周りに回転しているかを教えて欲しいと述べられた。私はそれが何を試しているのかを知っていたので、回答するのを遅らせようと思っていたのだが、知人の彼はすぐに回答してしまった。

知人:「時計回りに回っていますね」

警官:「時計回り…ですか。」

その人形が時計回りに回っているように見えるというのは、一般人とは違う脳の働かせ方ができるといことと集団平均よりも知能が高いことを示していた。その回答をして欲しくないという回答を彼はしてしまった。というのも、警官たちは現在逃亡中の人間たちが知能が高いということを知っていた

からである。彼の回答によって、警官たちの表情が変わった。彼らは追加であれこれと私たちに質問をし始めた。先ほどまでどこにいたのか、昨日はどこで何をしていたのか等々である。

私は彼らがそのような質問を始めたので、これはまずいと思い、2人の知人に合図をし、そこから一気に逃げることにした。交番はいくつかの部屋に分かれており、すぐに外に出ることはできず、それらの部屋を歩いていく手間があった。

なんとか無事に外に出て、そこから私たちは、またしてもヘリコプターのようなパトカーに乗って空を飛んで移動することになった。すると、男性の知人はどこかに消え、再度女性の知人と2人になり、私たちは引き続き逃亡することにした。

すると突然、私はロシアの海岸沿いにある街にいた。どうやら知人は別の場所に到着し、私はその街に到着したようだった。海岸沿いには国道が走っていて、堤防の反対側にいくつかのレストランがあった。そのうちのひとつのレストランに吸い込まれるようにして中に入ると、そこでレストランのオーナーらしき人物から、あのヘリコプターのような乗り物を売って欲しいとお願いされた。

もう燃料もほとんど残っておらず、さらにはその置き場を悩んでいた私は、オーナーらしき男性の申し出を受けた。するとまたしても、私の体は日本にあって、先ほど一緒に逃亡していた女性の知人と再び一緒に空を飛んでいた。

「ロシアでのあの一件はなんだったのだろうか？」そのようなことが脳裏をかすめていったが、今はまた集中して逃亡する必要があると思い、意識を切り替えた。そこから私たちは、もう別々の方向に向かって逃げることにした。その方は現在の住まいのある県の方に向かって、私は実家のある山口県に向かって逃亡することにした。そして私は、もう空を飛ぶのではなく、広島のだこかの駅から列車に乗ろうと思った。気がつくとい私は、実家近くの駅にいて、そこから実家に向かうまでの間、誰にも気づかれずに身を隠しながら足早に移動しようと思った。フローニンゲン:2020/2/6(木)06:21

5519. 言語と知性:「偏在精神説」と脳の潜在能力

つい先ほど今朝方の夢について振り返っていた。夢の中で空を飛んでいたことも印象的だったが、突然瞬間移動して、自分がロシアにいたことも印象に残っている。夢の中の身体、つまりドリームボ

ディとしてのサトルボディは、あのように時空を超えることが可能なのだと改めて思った。それは今から9年前の幽体離脱体験の際に仮説として思っていたことでもあった。物理的な制約のないサトルボディの性質はやはり興味深い。なにせ空を飛んだり、瞬間移動することが可能なのだから。

そういえば、その他にも断片的であるが夢を見ていたことを思い出した。高校時代のある友人(MK)が、哲学書で展開されているような抽象的な文章を、しかもそれを英文で集中して大量に読むことが言語能力の向上、ひいては知性の発達につながるということを述べていた。夢の中の私は彼の指摘に大いに同意していた。

夢の中の友人は、実際にそれを実行していたようであり、確かに彼の知性が随分と発達していることに私は気付いていた。抽象的な英文を徹底的に読み込んでいった経験のある人に固有の知性が彼の中に宿っていて、話し言葉として話される言葉の色も形も、そうした経験を経っていないと生み出されぬものであった。そのような場面があったのを覚えている。バイリンガルの脳に関する現代の研究から、彼が述べていることは妥当性があった。また、言語世界に存在する言語エネルギーは、発達理論が述べるところの階層性を持っていて、抽象的な言語空間であればあるほど高密度なエネルギーがそこに存在していることを知っていたこともあり、そうした高密度なエネルギーに意識を集中させて触れることが知性の涵養につながるというのも納得がいく話であった。

昨日、ディーパック・チョップラの“Quantum Healing: Exploring the Frontiers of Mind/Body Medicine”を読んでいると、哲学者のアンリ・ベルグソンが提唱した「偏在精神説」に行き着いた。これは、「人間は宇宙からのありとあらゆる刺激と情報を受け止めているが、生存のために有益なもの以外は削除して、必要なものだけを知覚している」という説である。

とりわけジョン・エフ・ケネディ大学に留学していた際に体験した諸々の事柄から、脳がそうした機能を持っていることには薄々気付いていた。ベルグソンが宇宙を物理宇宙のことを指していたのかは定かではないが、私たちの脳は物理宇宙や目には見えない情報宇宙から刺激と情報を絶えず受信していて、ベルグソンの言うように、不必要なものは遮断されてしまうのだと思う。もう少し付け加えるとすれば、社会に適応する過程で私たちの脳は、そもそもある特定の、ないしはある領域の刺激や情報を受け取れなくなってしまうのだと思われる。言い換えると、私たちの脳は随分と本来持っている力を削ぎ落とされてしまっており、社会的な制約がもしかすると安全弁かつ抑圧装置

として働いているのだと思われる。そのようなことを昨日考えていた。フローニンゲン:2020/2/6(木)
06:46

5520. 本日の振り返り

時刻はゆっくりと午後の9時を迎えようとしている。今日も1日が充実感と幸福感に包まれていた。

つい先ほど、夕方に届いた郵便物の封筒を開けた。封筒の差出人は保険会社からであり、ようやく保険に無事に加入できたことを知った。ビザ取得のタイミングを先方が誤解しているのか、法律で決められているビザ取得後から4ヶ月よりも遅く私が保険を申請したと誤解していたようなのだが、なんとか無事に保険に加入することができた。どうやら保険のカードがまた後日届くようなので、それを受け取ってから、半年に一度の歯科医の検診の予約をしたい。

今日も読書と創造活動に打ち込む1日だった。ここ最近では、読みたい学術書が次々と見つかり、大学院に所属していた時のことを思い出させる。いや、下手をすると、当時よりも積極的に学術書を読んでいるかもしれない。ただ1つだけ残念なのは、今は大学機関に所属していないため、当時であれば無料で様々な学術ジャーナルにアクセスし、大量の論文を読むことができたのだが、今はそれができないことである。ただし、例えばオックスフォード大学出版やケンブリッジ大学出版から出版されている選りすぐりの論文集であれば書籍として購入することができるし、それに類する論文集は他の大学の出版社からも出されているので、事足りると言えば事足りる。今後学術ジャーナルを大量に読む機会は、博士課程に進学した時になるだろうか。その楽しみはもう少し先になりそうである。

旺盛な読書と創造活動によって、自分の内側に情報エネルギーが階層的に構築され、それが自分にフィードバックをもたらし、活動エネルギーの高まりにつながっているように感じる。特にここ最近では、読書を通じて内側の情報エネルギーが密なものになっていることを感じる。これから就寝までもう少し時間があるので、また読書をしていこう。

午後に仮眠を取っていると、今日もまたコーザルの意識状態まで意識が深まっていった。とりわけ最近では意識の状態に関する探究を様々な角度から進めており、仮眠中の体験もまた貴重な体験データになる。仮眠を取る時には大抵、短い時間の中でコーザルの意識状態に行き着く。グロス

サトル-コーザル、そしてコーザル-サトル-グロスという形で3つの意識状態が往復される。これは夜の睡眠中にも起こることであり、20分から25分ほどの短い仮眠の中にもこれと同じサイクルがあることに注目する。そして夜に見る夢以上に鮮明なビジョンを知覚したり、特殊な身体感覚を得たりする点には今後も注目したい。後は、それらの体験をどのように省察していくかである。フローニンゲン：
2020/2/6(木)21:00